

令和6年度 全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

吹田市教育委員会

はじめに	P 1
1. 調査の概要	P 1
2. 教科に関する調査結果	
(1) 全体の概要	P 2
(2) 各教科の概要	P 3 ~ 15
3. 児童・生徒の質問調査結果	
(1) 各教科に関する質問	P 16 ~ 17
(2) 学習等に関する質問	P 18 ~ 21
おわりに	P 21

はじめに

本市では「今 吹田から 未来の力を 生命かがやき ともにつながり 未来を拓く吹田の教育」という教育理念のもと、基本目標の一つとして「総合的人間力の形成」を掲げています。そして、確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら未来を切り拓いていく子供たちの育成をめざしています。

学習指導要領では、(1)何を理解しているか、何ができるか(知識・技能)、(2)理解していること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)、(3)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力・人間性等)の3つの資質・能力をバランスよく育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

本市でも、学習指導要領に則り、各学校において、児童・生徒が「見方・考え方」を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり等の指導方法の工夫改善を図っています。本市の教育理念及び基本目標のもと、各学校の課題解決に向け、本調査結果の分析を児童・生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立て、引き続き児童・生徒の確かな学力の育成につなげてまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和6年(2024年)4月18日(木)

(3) 調査対象 小学校6年生・中学校3年生の児童・生徒

(4) 本市受験者数 小学校 36校 (国語3383名、算数3387名)
中学校 18校 (国語2882名、数学2882名)

(5) 調査内容

ア. 教科に関する調査 : 小学校 (国語・算数)
中学校 (国語・数学)

イ. 学習状況に関する調査(「児童質問調査」・「生徒質問調査」)

調査する学年の児童・生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査。児童・生徒に貸与している一人一台学習用端末を用いたオンラインによる回答方式。

ウ. 学校の取組に関する調査(「学校質問調査」)

学校を対象に学校における指導方法に関する取組や、教育条件の整備の状況等に関する質問調査。オンラインによる回答方式。

(6) 調査経緯

全国学力・学習状況調査は平成19年度～平成21年度に全員調査を行い、平成22年度・平成24年度・平成25年度は3割の抽出校及び希望校による調査でした。平成26年度以降は再び全員調査となっています。平成23年度は東日本大震災のため、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休校措置となり、中止となりました。令和5年度は、平成31年度から4年ぶりに英語が実施され、令和6年度は、抽出校において経年変化分析調査及び保護者に対する調査が実施されました。

※平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施。

※令和元年度から中学校調査で英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

※令和元年度から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

2. 教科に関する調査結果

(1) 全体の概要

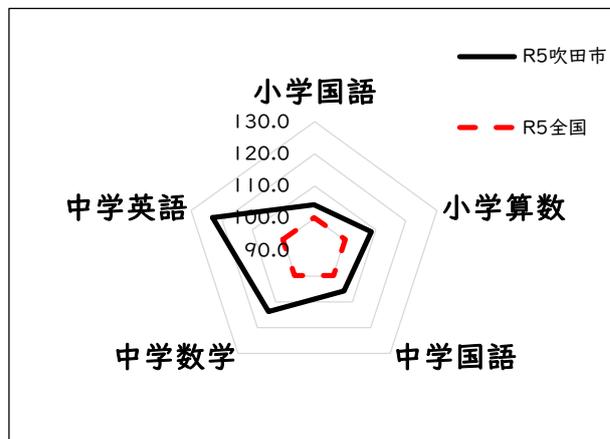
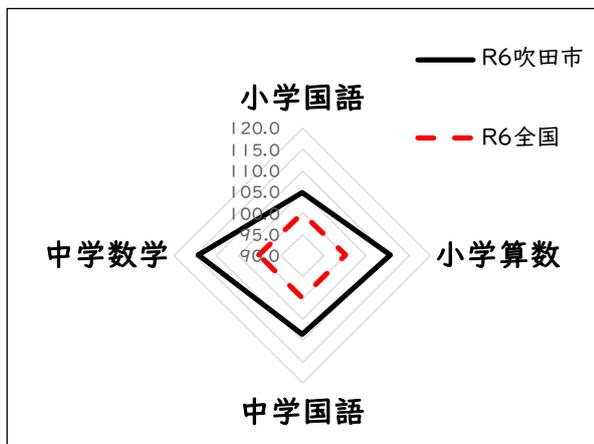
校種・教科別正答率と全国比值

【令和6年度】

	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学
R6吹田市	104.9	110.4	108.4	114.3
(平均正答率)	71.0	70.0	63.0	60.0
R6全国	100	100	100	100
(平均正答率)	67.7	63.4	58.1	52.5

【令和5年度】

	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学	中学英語
R5吹田市	104.2	108.8	106.0	113.7	122.8
(平均正答率)	70	68	74	58	56
R5全国	100	100	100	100	100
(平均正答率)	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6



※令和6年度中学英語の調査なし

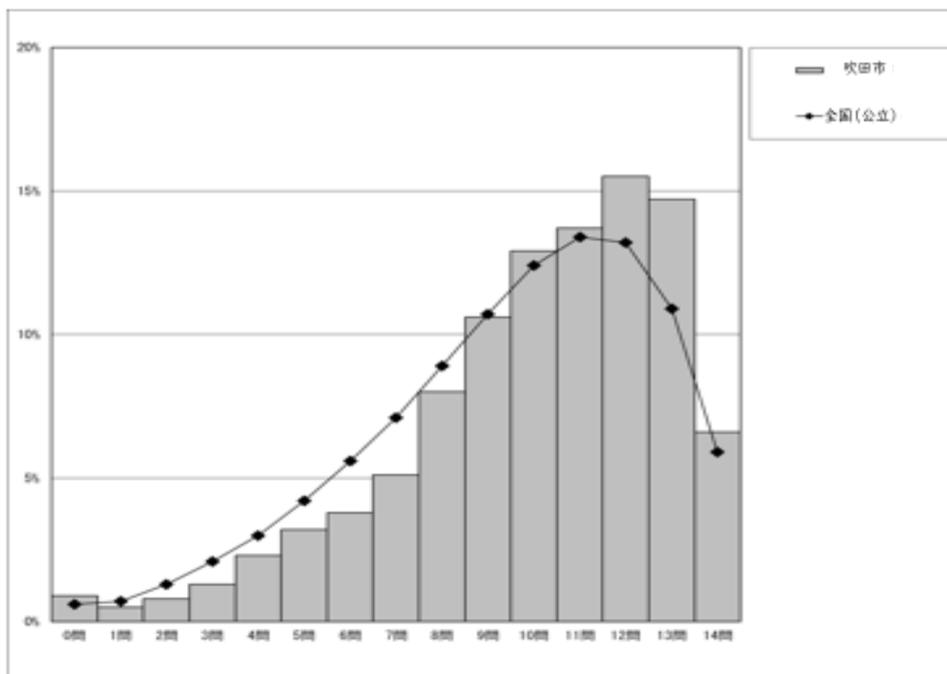
○小学校・中学校とも全国値を上回っている。

○特に、小学算数、中学数学では全国値を大きく上回っている。

(2) 各教科の概要

【小学校・国語】

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
吹田市	3,383	10.0/ 14	71
大阪府(公立)	64,339	9.2/ 14	66
全国(公立)	947,364	9.5/ 14	67.7

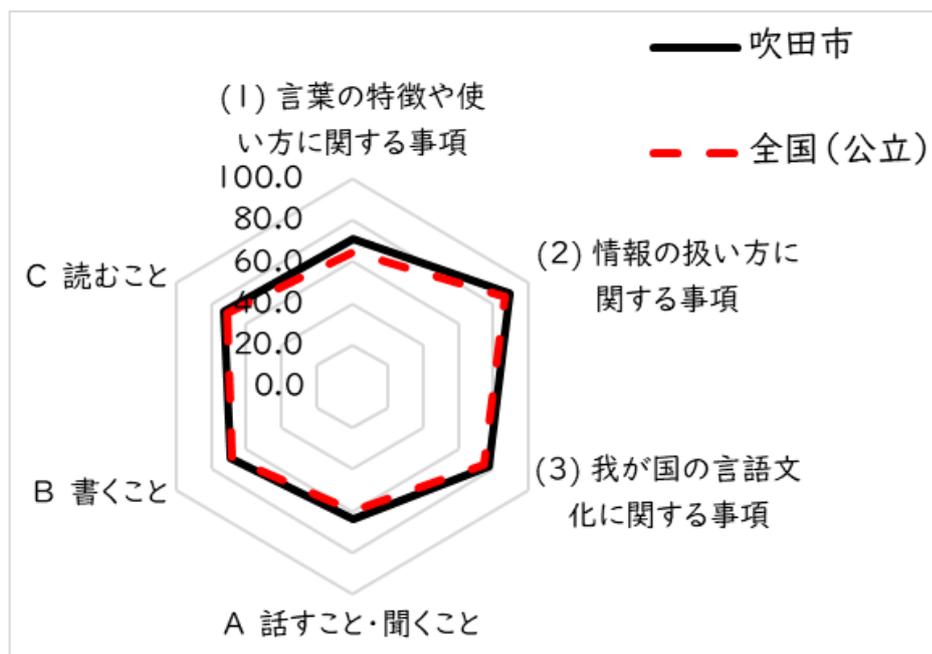
<分類・区別集計結果>

※「対象問題数」が0の場合(設問なしの場合)、「平均正答率」は空欄

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体		14	71	66	67.7	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	71.0	63.4	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	89.5	85.5	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	77.3	72.6	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.8	57.3	59.8
		B 書くこと	2	68.8	65.9	68.4
		C 読むこと	3	72.8	69.0	70.7
評価の観点	知識・技能	6	75.1	68.6	69.8	
	思考・判断・表現	8	68.4	63.9	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	73.3	68.0	69.9	
	短答式	2	68.5	58.7	59.7	
	記述式	2	64.2	62.3	64.6	

※「学習指導用要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

学習指導要領の内容の平均正答率



<問題別集計結果>

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係 (正答率)
		吹田市	大阪府 (公立)	全国 (公立)	吹田市	大阪府 (公立)	全国 (公立)	
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	65.2	59.9	62.5	1.3	0.8	0.7	○
1二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	80.3	74.0	75.9	1.1	0.7	0.6	○
1二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	56.4	50.1	52.9	1.2	0.8	0.7	○
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	69.7	61.9	63.8	1.4	1.1	0.9	◎
2一 (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	82.6	78.1	80.3	1.5	1.0	0.9	○
2一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	89.5	85.5	86.9	1.3	1.1	0.9	○
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	55.1	53.7	56.6	4.8	5.0	4.9	-
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	54.8	41.4	43.4	10.3	12.8	13.2	◎
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	82.2	76.1	76.0	6.6	7.5	8.0	◎
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	66.7	61.9	62.3	2.7	2.2	2.0	○
3二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけていると考えられるところとして、適切なものを選択する	71.4	65.4	66.9	3.6	2.9	2.6	○
3二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	73.9	70.9	72.5	4.0	3.2	2.9	-
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	73.2	70.8	72.6	12.5	12.9	12.6	-
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	77.3	72.6	74.6	9.6	8.0	7.6	○

※全国との関係を表す記号は、下の基準による示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

【課題の見られる設問について】

●設問番号

2 (二)

●設問の趣旨

【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く

「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」

●課題

吹田市(カッコ内は全国値)

- ・正答率 55.1% (56.6%)
- ・無解答率 4.8% (4.9%)

国語全体において、「書くこと」に課題があり、特に本設問は、正答率において全国値を下回り、無解答率は、全国値を上回った。このことから、国語科の学習において、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」について課題がある。

●改善を図るための具体的な方策

昨年度から「話を聞いて自分の考えをまとめる際に、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」ことに課題があり、継続して「自分の考えをまとめる」ということに取り組む必要がある。

課題を改善するために、日々の授業において、話し合いの機会を増やし、自分とは異なる視点や意見を取り入れ、自分の考えを構築し、整理する活動を行う。例えば、インタビューの際に、児童は事前に質問リストを準備し、話し手の回答に対して、さらに掘り下げた質問を繰り返し行う。児童は回答を予測することで、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理しやすくなる。

インタビュー後には、得られた情報を整理し、自分の考えをまとめる活動の中で、より深い理解を得ることが可能となり、考えをまとめる力を身につけることができる。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人も仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなてつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、イなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

- 6年生がくふうしていること
 - 遊びたいことを下級生に聞く
 - ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

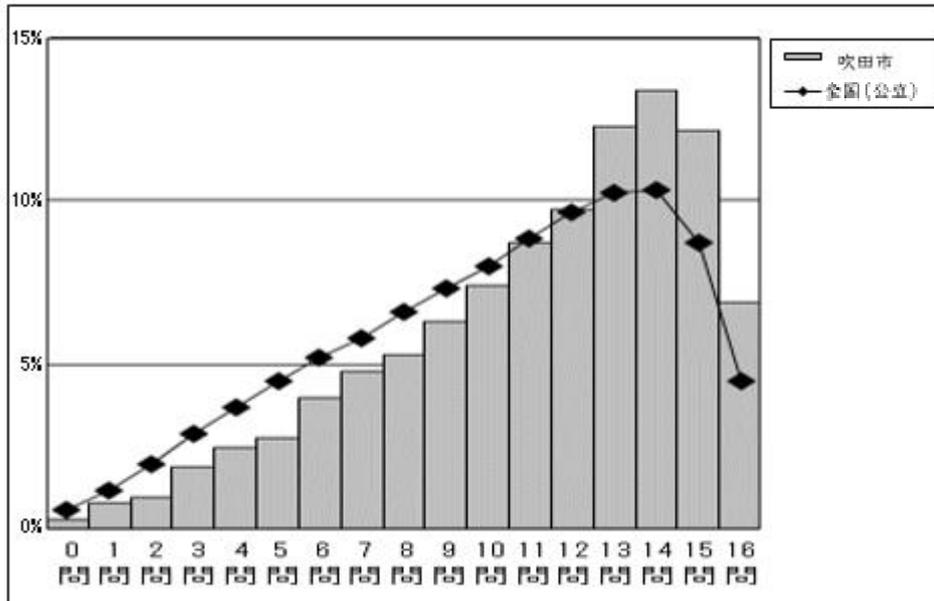
下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の [] に、「高山さんの取材メモ」をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 [] に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

【小学校・算数】

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
吹田市	3,387	11.1 / 16	70
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4

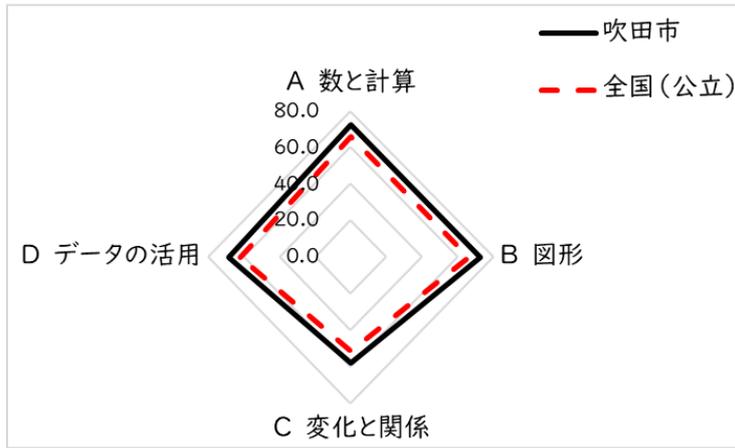
<分類・区別集計結果>

※「対象問題数」が0の場合(設問なしの場合)、「平均正答率」は空欄

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		16	70	63	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	72.1	65.3	66.0
	B 図形	4	72.6	65.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	57.9	50.9	51.7
	D データの活用	4	68.3	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	9	78.0	71.9	72.8
	思考・判断・表現	7	58.6	50.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	79.7	74.5	75.3
	短答式	7	69.3	61.2	62.0
	記述式	4	57.2	50.1	51.0

※「学習指導用要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

学習指導要領の内容の平均正答率



※全国との関係を表す記号は、
下の基準による示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

<問題別集計結果>

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係 (正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	67.4	61.1	62.1	0.2	0.2	0.2	◎
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	91.4	88.1	88.5	0.2	0.3	0.3	○
2(1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	63.5	56.1	56.9	2.3	3.6	3.4	◎
2(2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	75.0	68.3	69.1	1.2	1.4	1.3	◎
3(1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	87.6	84.8	85.5	0.5	0.7	0.6	○
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	76.9	69.9	71.3	1.0	0.9	0.8	◎
3(3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	47.9	34.5	36.5	8.6	9.8	9.8	◎
3(4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	77.9	71.8	72.0	1.4	1.9	1.8	◎
4(1)	$540 \div 0.6$ を計算する	77.9	70.0	70.1	2.2	3.1	3.1	◎
4(2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	76.4	70.5	70.0	3.2	3.4	3.3	◎
4(3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	36.4	29.2	31.0	2.3	2.4	2.4	◎
4(4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	60.9	53.0	54.1	4.0	4.3	4.6	◎
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	87.1	80.6	80.8	1.7	1.9	1.8	◎
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	77.8	71.4	73.3	3.1	4.2	3.9	○
5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	50.9	43.3	44.0	9.9	12.6	12.6	◎
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	57.3	48.3	49.3	3.7	4.0	4.0	◎

【課題の見られる設問について】

●設問番号

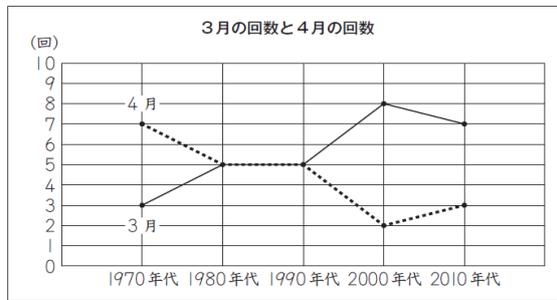
5 (3)

●設問の趣旨

折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く

「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを、言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

●課題

吹田市(カッコ内は全国値)

・正答率50.9%(44.0%)

・無解答率9.9%(12.6%)

本設問は、全国、吹田市ともに最も無解答率が高く、「日常生活の問題を解決するために、目的に応じて収集したデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察する」ことについて課題があると考えられる。

●改善を図るための具体的な方策

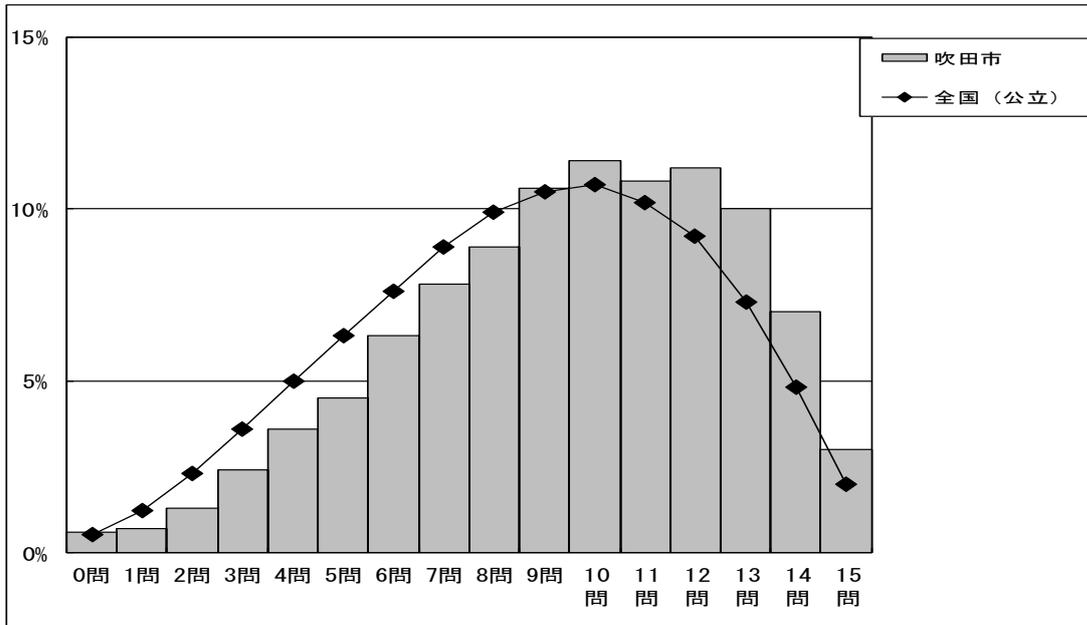
必要なデータを収集し、分類整理をしたり、表や適切なグラフに表したりして、統計的に問題を解決できるようにするため、図や式、言葉等の決められた条件を選び出し、求め方を文に表す機会を増やす。

条件や情報を解釈し、数学的に表現し、問題を解決するための判断力を高められるよう、判断の理由を授業や日常生活において説明する機会を設け、設問に求められる条件や情報を見つける機会を積極的に設ける。

算数で高める力の大切さや楽しさを実感し、算数が好きになるように、児童の興味・関心や問題意識に基づき、目的をもった課題解決的な活動(単元)を設定し、取り組む。

【中学校・国語】

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
吹田市	2,882	9.5 / 15	63
全国(公立)	875,574	8.7 / 15	58.1

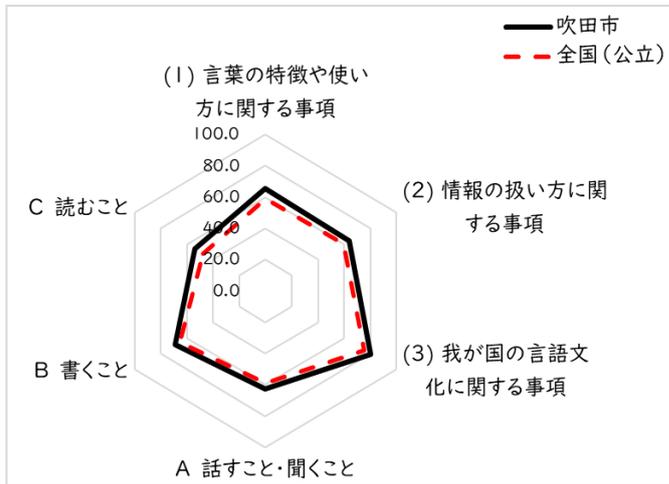
<分類・区別集計結果>

※「対象問題数」が0の場合(設問なしの場合)、「平均正答率」は空欄

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体		15	63	57	58.1	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	65.7	59.1	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	64.0	59.4	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	80.5	75.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.4	56.4	58.8
		B 書くこと	2	69.0	63.3	65.3
		C 読むこと	4	53.7	47.2	47.9
評価の観点	知識・技能	6	67.6	62.0	62.0	
	思考・判断・表現	9	60.0	53.8	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	65.7	60.4	61.0	
	短答式	3	67.7	62.0	61.8	
	記述式	3	50.5	42.2	45.5	

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

学習指導要領の内容の平均正答率



※全国との関係を表す記号は、
下の基準による示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

<問題別集計結果>

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係 (正答率)
		吹田市	大阪府 (公立)	全国 (公立)	吹田市	大阪府 (公立)	全国 (公立)	
1一	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	66.2	60.9	63.2	0.2	0.3	0.4	○
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	74.4	68.6	68.5	2.7	4.0	3.5	◎
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	48.0	43.8	44.0	0.2	0.4	0.5	○
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	46.8	39.6	44.7	8.5	12.4	9.9	○
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	41.6	36.0	36.3	0.5	0.4	0.5	◎
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	80.1	75.0	75.2	0.5	0.5	0.6	○
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	70.4	63.0	64.5	0.4	0.5	0.6	◎
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	49.6	40.3	42.6	7.6	9.6	8.4	◎
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	83.1	79.9	81.4	0.5	0.6	0.7	—
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	58.4	53.4	53.8	0.9	0.9	1.0	○
3三	漢字を書く(みちたりた)	75.3	68.2	68.8	7.5	10.6	10.2	◎
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	55.0	46.7	49.3	12.4	17.1	15.0	◎
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	63.3	55.7	54.9	1.2	1.1	1.8	◎
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	53.4	49.4	48.3	2.4	3.0	3.4	◎
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	80.5	75.8	75.6	1.6	1.4	2.3	○

【課題の見られる設問について】

●設問番号

③ (一)

●設問の趣旨

物語を創作するために集めた材料を、取捨選択した意図が説明されている適切なものを選択する

「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」

1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちより明確に伝わるようにするため。
 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため。
 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しく困ったことがより明確に伝わるようにするため。

一 佐藤さんは、「フートの一部」の(もとにする体験)に書いた情報の中から、「最近はおオンライン辞書ばかり使っている」と「紙の辞書を久しぶりに使った」を取り上げることになりました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

① あの日も僕は、君の部屋の扉の前でじっと待っていた。ほりだらけになりながら、中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたリ、書き込みをしたりしてくれていたのに、君との距離は、ずいぶん遠くなつてしまった。
 ② インターネットなど、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、()に切り替はる検索で()、かさばらないし、君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。
 ③ そう考へていたとき、君は僕を手に取った。学校にタブレットを置いてきたのだから、久しぶりだったから、僕はずいぶん、君はほりだらけで大きくくしゃみをした。ほりだらけの君に顔をしかめたけれど、何故かべーじを繰ってはい、いろいろな言葉の意味を調べていた。僕も、いつもは時間がかかっていた。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも目を引き、意味を確認する君、意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらく、べーじを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を眺み返していた。君はほりだらけな表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。
 ④ あの日から数日が過ぎた。

③ 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「フートの一部」と「物語の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(フートの一部)及び「物語の下書き」の①から④は、場面の書きを表します。

フートの一部

(登場人物の設定)
 ・「僕」……紙の辞書。語り手。
 ・「君」……紙の辞書の持ち主(中学生)。

(もとにする体験)
 小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
 使った時、紙の辞書の引き方が難しく困った。
 ・最近はおオンライン辞書ばかり使っている。
 ・紙の辞書を久しぶりに使った。

(物語を通して伝えたいこと)
 紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。
 (各場面面で伝えたい「僕」の心情)
 ① 出番のない寂しさ。
 ② 忘れられるかもしれない不安。
 ③ 久しぶりの出番で感じた喜び。
 ④ 次の出番への期待。

●課題

吹田市(カッコ内は全国値)

- ・正答率 83.1%(81.4%)
- ・無解答率 0.5%(0.7%)

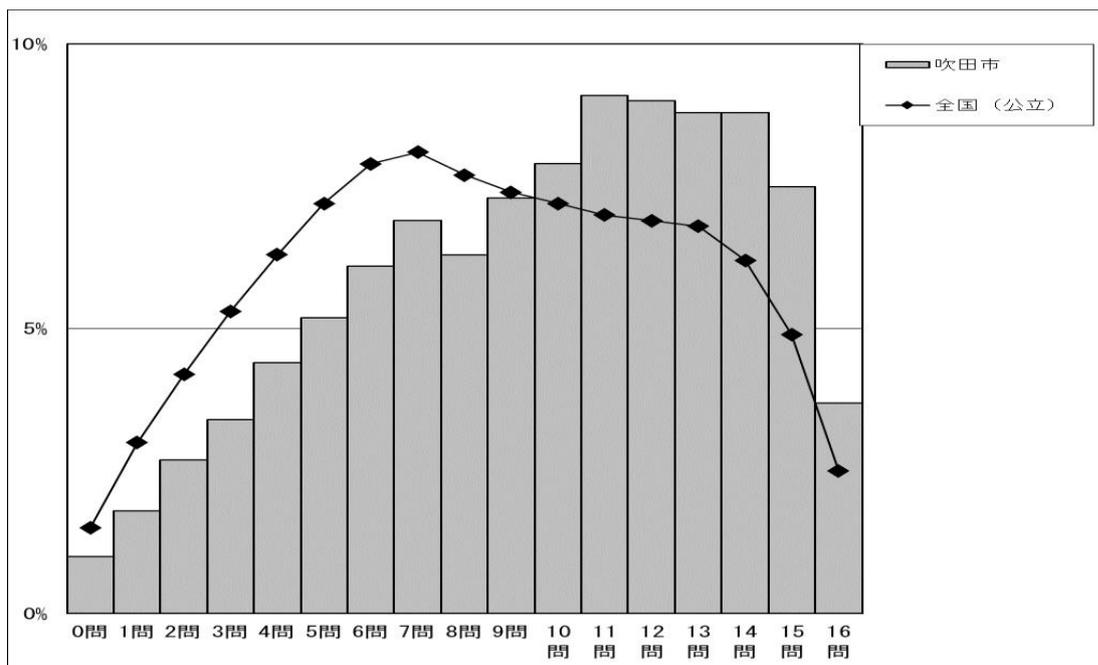
全ての問題の正答率は全国値を上回っているが、本設問は、正答率において全国値と数値が近いものの一つであった。国語科の学習では、「題材の設定」、「情報の収集」、「内容の検討」について課題があると考えられる。

●改善を図るための具体的な方策

物語の内容や設問の意図を理解することにとどまらず、必要な情報を整理したうえで、理論的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、自分の想いや考えを広げたり、深めたりする力の育成が重要である。そのために、まずは思考力、判断力、表現力の各事項と関連付けて、生徒に何を身につけさせたいかを明確にする必要がある。そのうえで、社会生活の中から、生徒が必然性を感じられる課題を設定し、生徒が興味・関心を持って主体的に物語を創作する中で、感じたことや想像したことを書く活動を取り入れる教育活動を行う。

【中学校・数学】

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
吹田市	2,882	9.6 / 16	60
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5

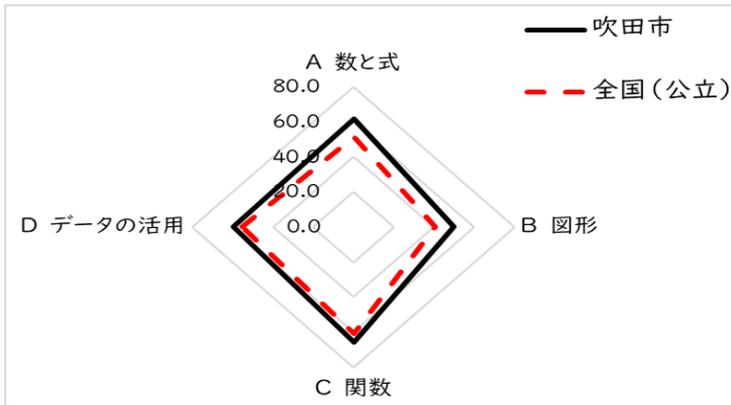
<分類・区別集計結果>

※「対象問題数」が0の場合(設問なしの場合)、「平均正答率」は空欄

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		16	60	51	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.5	50.4	51.1
	B 図形	3	50.1	40.5	40.3
	C 関数	4	65.7	58.9	60.7
	D データの活用	4	59.8	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	11	69.9	61.9	63.1
	思考・判断・表現	5	38.2	28.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	63.8	56.9	58.5
	短答式	6	74.9	66.1	67.0
	記述式	5	38.2	28.2	29.3

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場
 合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致し
 ない場合がある。

学習指導要領の内容の平均正答率



※全国との関係を表す記号は、
下の基準による示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

<問題別集計結果>

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係 (正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	48.6	34.7	34.8	9.8	16.1	14.3	◎
2	等式 $6x+2y=1$ をyについて解く	65.0	52.6	52.5	6.2	11.0	9.7	◎
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	76.4	67.5	68.3	0.2	0.4	0.3	◎
4	一次関数 $y=ax+b$ について、 $a=1$ 、 $b=1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	70.7	63.8	65.3	0.7	0.7	0.7	◎
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	78.2	72.8	73.1	2.7	4.8	4.2	◎
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	93.9	89.3	90.2	1.8	3.5	2.5	○
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	49.4	35.6	35.9	17.1	26.1	23.5	◎
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	50.8	39.6	41.8	24.6	33.4	29.6	◎
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	81.6	73.0	74.3	4.9	7.0	5.8	◎
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	28.2	22.3	25.9	27.1	34.7	29.4	○
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	51.1	45.0	48.5	0.8	0.9	0.9	○
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	86.2	81.2	83.4	0.6	0.8	0.8	○
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	23.9	16.8	17.1	15.4	18.3	16.4	◎
8(3)	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	82.2	74.0	76.9	3.1	4.8	3.8	◎
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	38.9	27.0	25.8	26.1	35.2	33.6	◎
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	34.8	26.9	26.7	3.0	3.2	4.5	◎

【課題の見られる設問について】

●設問番号

7 (2)

●設問の趣旨

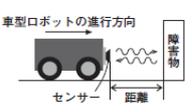
車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する

「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

車型ロボットの説明

○ 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。



○ プログラムの [②]、[④] に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。

○ [②] は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。

○ [④] は、距離として3cmから500cmまで設定できる。

プログラム

```

    段階 [ ② ] の速さで前に進む → 障害物からの距離が [ ④ ] cmより小さいことを感知する → 止まる
    
```

海斗さんは、まず、プログラムの [②] に1を、[④] に10を入れて、次のように設定しました。

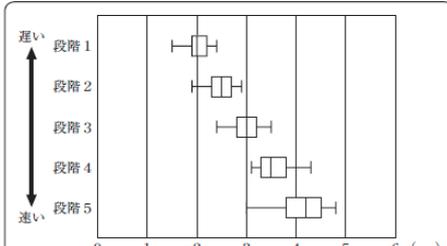
海斗さんが設定したプログラム

```

    段階 [ 1 ] の速さで前に進む → 障害物からの距離が [ 10 ] cmより小さいことを感知する → 止まる
    
```

(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10cmの位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10cmの位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10cmの位置から進んだ距離の分布



	10cmの位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

●課題

吹田市

・正答率 28.2% (25.9%)

(かっこ内は全国値) ・無解答率 27.1% (29.4%)

本設問は、吹田市で最も無解答率が高く、正答率が3割を下回るものであった。データの活用に係る用語や複数のデータについて、「分布の傾向を比較して読み取ること」、「判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」について課題がある。

●改善を図るための具体的な方策

収集したデータ分布の傾向を、生徒が主体的に考察できる教材の工夫が必要である。その際、中央値、四分位数などを用いた箱ひげ図を作成する機会を増やすことや、分布の傾向を読み取り、箱ひげ図の箱の位置や四分位数等を根拠として説明できるような活動を重視することが大切である。

データの統計を活用して問題解決ができるようにしたり、結果を考察して判断する力を身につけるために、生徒が興味・関心を持てるような身近な日常生活の問題を設定し、問題の発見、データの収集、データの処理、データの傾向を説明・考察するといった一連の活動ができるような授業展開等の工夫が必要である。また、データの結論に対して批判的に考察できるように指導することも大切である。

前ページの10cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

3. 児童・生徒の質問調査結果

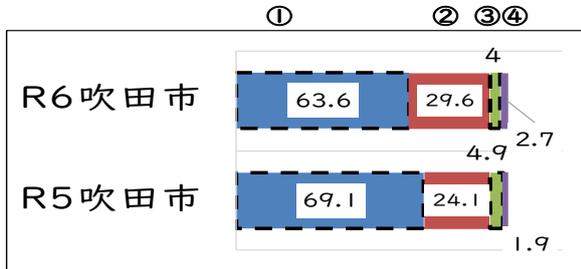
(1) 各教科に関する質問

国語

〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

Q 国語の勉強は大切だ。

小学校



中学校

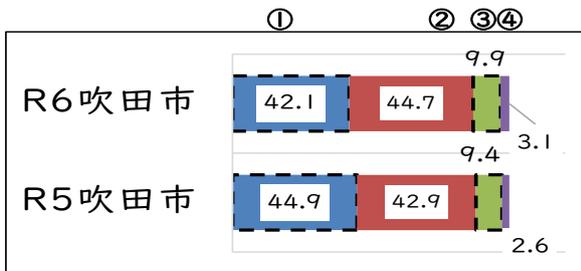


	①	②	③	④
R6全国(%)	67.5	27.0	3.6	1.9
R5全国(%)	69.1	25.1	4.0	1.8

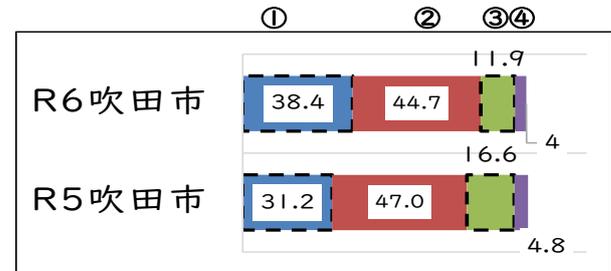
	①	②	③	④
R6全国(%)	62.4	31.5	4.1	1.6
R5全国(%)	60.0	32.4	5.3	2.1

Q 国語の授業の内容はよく分かる。

小学校



中学校

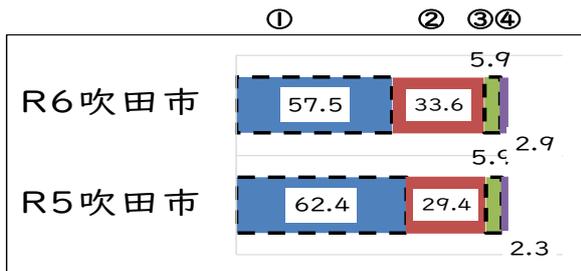


	①	②	③	④
R6全国(%)	39.2	47.1	10.8	2.8
R5全国(%)	40.4	45.3	11.3	2.9

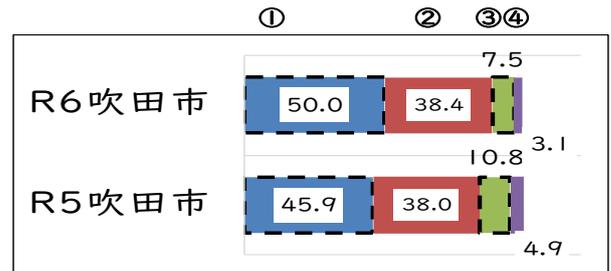
	①	②	③	④
R6全国(%)	32.0	50.7	13.6	3.0
R5全国(%)	30.4	49.6	15.8	3.8

Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

小学校



中学校



	①	②	③	④
R6全国(%)	61.8	31.4	4.9	1.8
R5全国(%)	64.4	28.4	5.2	1.8

	①	②	③	④
R6全国(%)	52.3	38.3	6.7	2.1
R5全国(%)	52.3	36.4	8.3	2.7

【現状】

- ・「国語の勉強は大切だ」及び「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」に関して、本市の肯定的回答率が小中学校ともに全国同様高い値で推移しているが、全国値をわずかに下回っている。
- ・「国語の授業の内容はよく分かる」に関して、本市の肯定的回答率は小中学校ともに高い値で推移しており、全国値をわずかに上回っている。

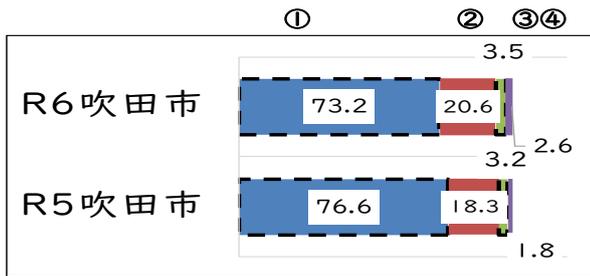
○以上2つの調査結果から、児童・生徒は自身の国語の授業や学習の大切さを肯定的に捉えていると言える。国語の授業において、継続して身近な日常生活に課題を結びつけ、国語に対する興味・関心を高めるなど指導方法の工夫改善を進める必要がある。

算数・数学

〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

Q 算数・数学の勉強は大切だ。

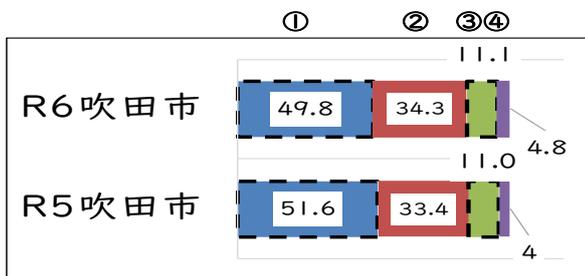
小学校



	①	②	③	④
R6 全国	74.3	20.3	3.3	2.1
R5 全国	75.3	18.9	3.7	2.0

Q 算数・数学の授業の内容はよく分かる。

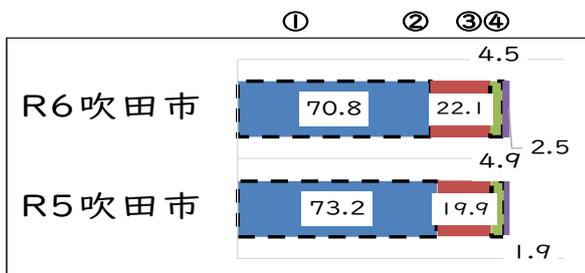
小学校



	①	②	③	④
R6 全国	44.9	37.2	13.1	4.8
R5 全国	45.2	36.0	13.8	5.0

Q 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

小学校



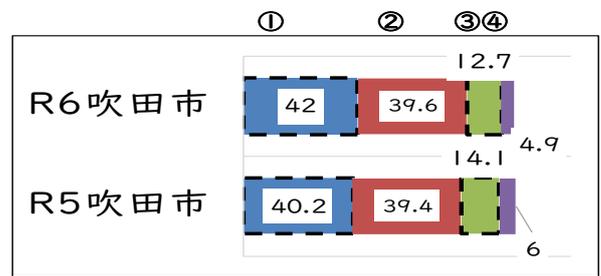
	①	②	③	④
R6 全国	71.7	22.4	4.0	1.8
R5 全国	73.0	20.3	4.5	2.0

中学校



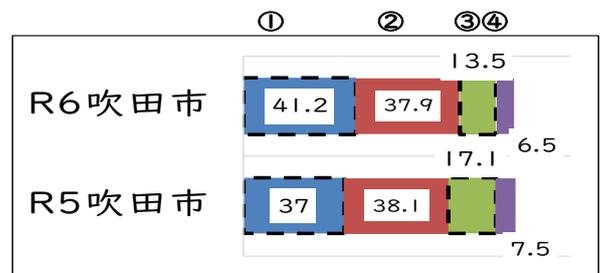
	①	②	③	④
R6 全国	52.8	34.4	8.8	3.6
R5 全国	49.8	35.2	10.5	4.2

中学校



	①	②	③	④
R6 全国	35.1	40.6	17.2	6.6
R5 全国	33.9	39.4	18.8	7.7

中学校



	①	②	③	④
R6 全国	40.0	38.5	15.3	5.7
R5 全国	38.8	37.0	16.9	6.9

【現状】

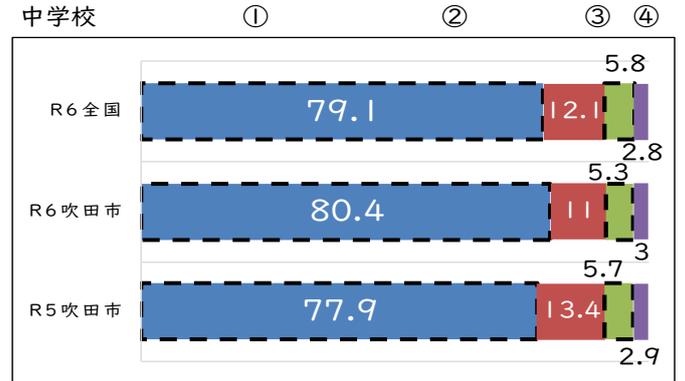
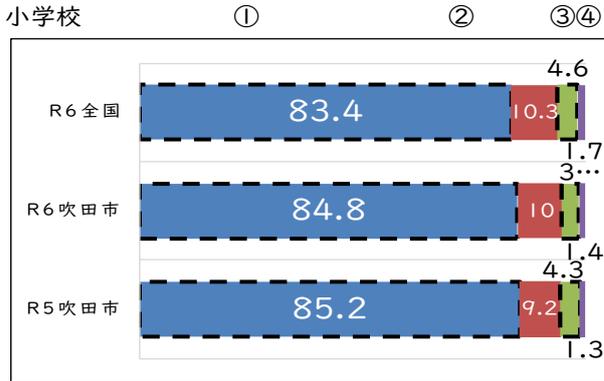
- ・「算数・数学の勉強は大切だ」に関して、本市の肯定的回答率が小中学校ともに全国同様高い値で推移しているが、全国値をわずかに下回っている。
- ・「算数・数学の授業の内容はよく分かる」に関して、本市の肯定的回答率は小中学校ともに全国同様高い値で推移しており、全国値をわずかに上回っている。
- ・「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」に関して、本市の肯定的回答率は、小中学校ともに全国同高い値で推移している。小学校では、全国値をわずかに下回り、中学校では全国値をわずかに上回っている。

○以上3つの調査結果から、児童・生徒は算数・数学の必要性を肯定的に捉えていると言える。国語と同様に算数・数学の授業においても、継続して身近な日常生活に課題を結びつけ、算数・数学に対する興味・関心を高めるなど指導方法の工夫改善を進める必要がある。

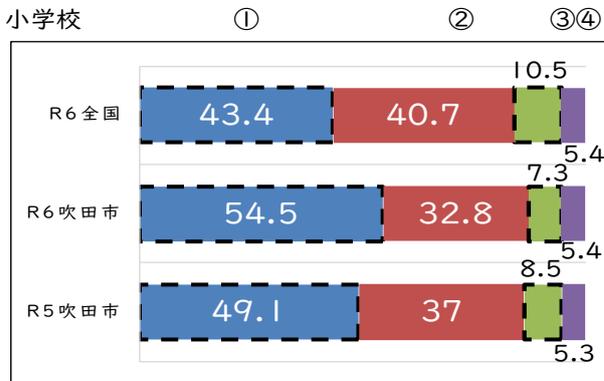
(2) 学習等に関する質問

●生活や将来等に関する項目

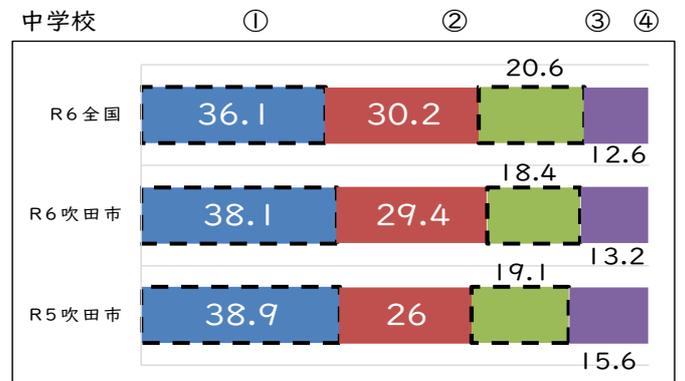
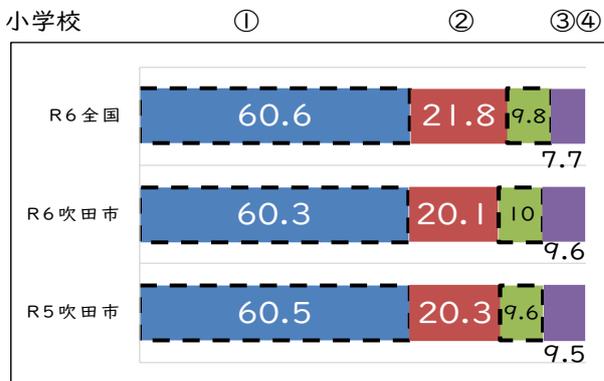
Q 朝食を毎日食べていますか 〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



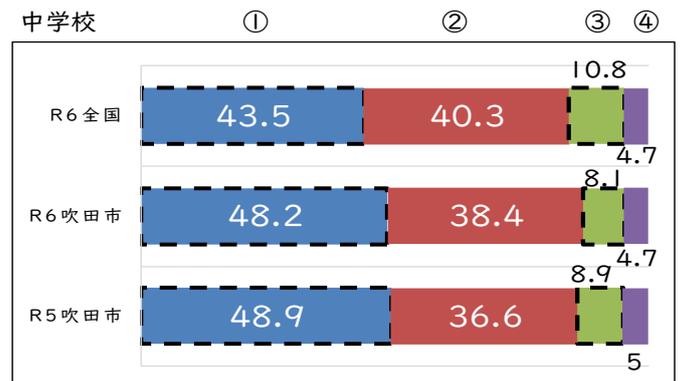
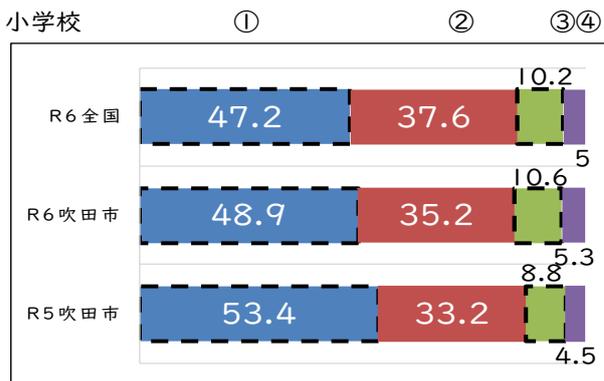
Q 自分には、よいところがあると思いますか



Q 将来の夢や目標を持っていますか



Q 学校に行くのは楽しいと思いますか

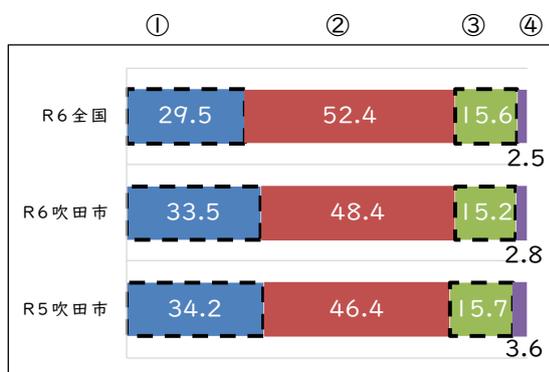


〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

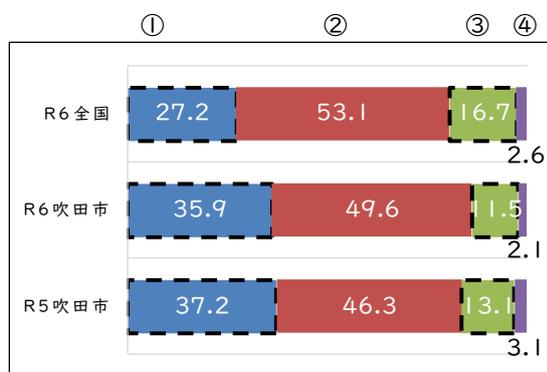
●主体的・対話的で深い学びの視点から(学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況)

Q 小学校5年生まで(中学校1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

小学校



中学校



小中学校ともに肯定的回答率が8割を超える結果となっており、小中学校において主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる成果が表れていると言える。

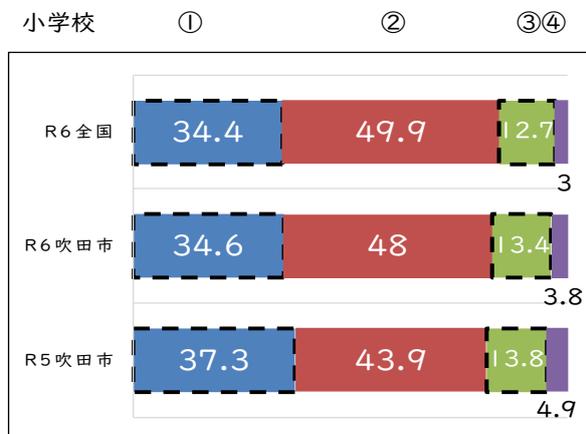
〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

●個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学びに関する状況について

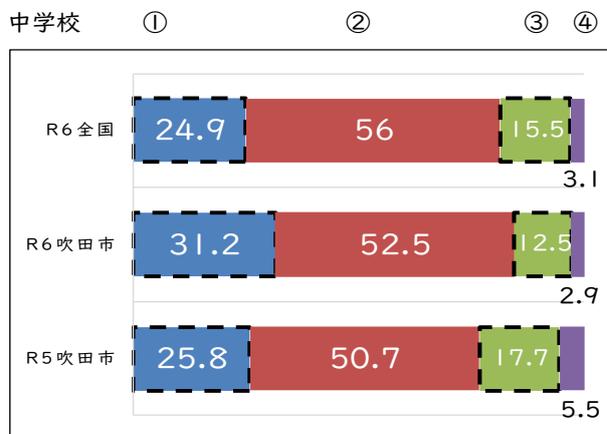
(学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況)

Q 小学校5年生まで(中学校1,2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた。

小学校



中学校



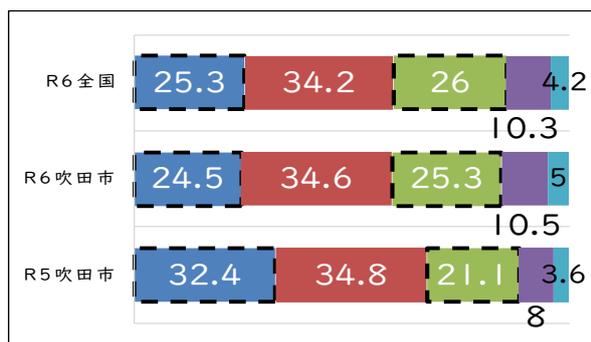
小中学校ともに肯定的回答率が8割を超える結果となっており、小中学校において個に応じた指導及び協働的な学びの支援が進んでいると言える。

●ICTを活用した学習状況について

・ICT機器をどの程度使用したか。 <凡例>①ほぼ毎日 ②週3回以上 ③週1回以上 ④月1回以上 ⑤月1回未満

小学校

① ② ③ ④ ⑤



中学校

① ② ③ ④ ⑤



<凡例> ①とてもそう思う ②そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。

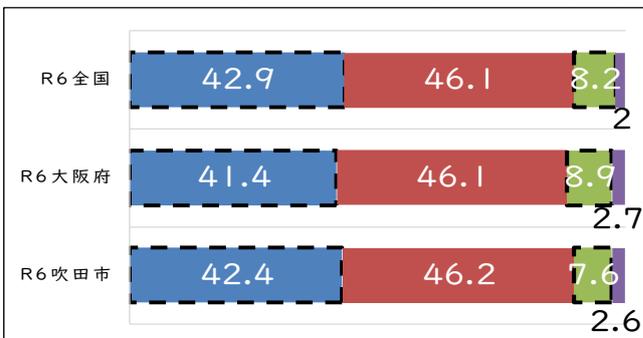
小学校

① ② ③④



中学校

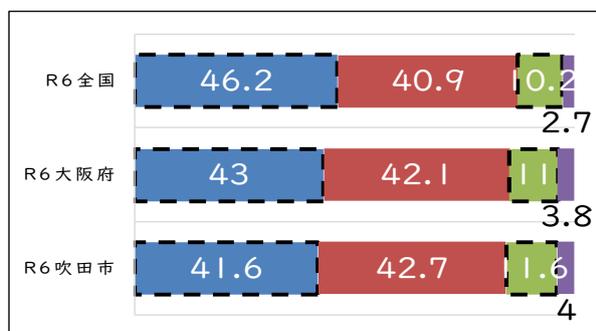
① ② ③ ④



・ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる。

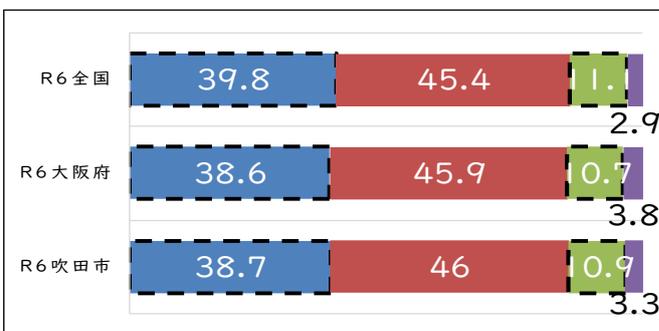
小学校

① ② ③④



中学校

① ② ③④

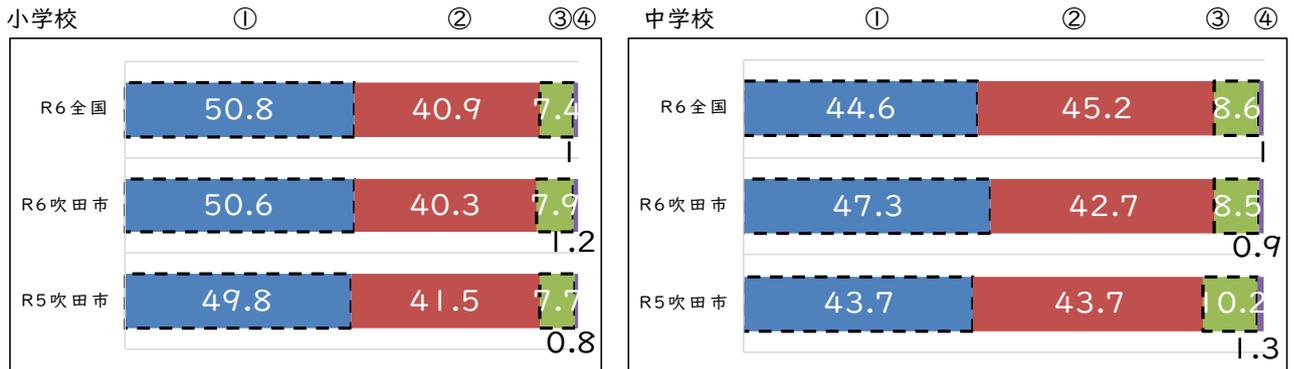


ICT 機器に関する質問が令和5年度と比べ、多く新設・変更されている。

ICT 機器に関する全ての質問において、肯定的回答率がいずれも8~9割となっていることから、小中学校において効果的な使用が進められていると言える。

●児童・生徒の幸福感に関する状況

Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



・文部科学省より「第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）」によると、「日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる」とし、2つのコンセプトのうちの一つとしてウェルビーイングの向上を掲げられている。なお、同計画ではウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」「多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念」とされている。本市において、肯定的回答率は、小中学校ともに全国値と同様、9割の児童・生徒が肯定的な回答をしており、引き続き授業等の学級活動や学校行事、児童・生徒会活動等を通して、他者との対話の場面を増やして互いの考えを認め合うなど、児童・生徒の自己肯定感を高め、幸せや生きがいを感じられるよう、誰一人取り残されない教育の推進を行う。

おわりに ～「総合的人間力の育成」を目指して～

令和6年度は、現行の学習指導要領の全面実施から小学校では5年目、中学校では4年目となり、本市「第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン」の計画期間（5年間）の最終年度でもありません。

本市小中学校においては、児童・生徒が今後、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むために、各教科において「何のために学ぶのか」という学ぶ意義について、学校と児童・生徒が共有しながら、授業及び指導の研究と実践に日々努めています。

教育委員会としましては、調査結果から見える各学校の取組の成果や課題を真摯に受け止め、予測困難な社会を生き抜く児童・生徒の「確かな学力」の育成のため、各学校における授業改善を支援してまいります。また、「総合的人間力の育成」を目指して、調査結果の情報を学校・家庭・地域で共有し、連携を進めてまいります。

令和6年（2024年）10月